

CAPD情報誌『スマイル 2005年秋号』に
当院の武田敏也副病院長が掲載されました！！



なんでも相談室



【医師】
医療法人社団恵心会
京都武田病院 副病院長
武田敏也先生

なんでも相談室ではご相談を募集しております。
疑問に思うことなど、とじ込みはがきで編集部にお知らせ下さい。

Q1. 外出先でバッグ交換をする時、液がぬるかったことがあります。やはり液の温度はいつも同じほうが良いのでしょうか？また、外出先で交換する際の注意点やコツがあれば教えてください。

A. 透析液は36℃の適温で使用するのが安全です。通常お使いの加温器は、透析液が36℃に保たれるよう設定されています。外出時や旅行時でも、加温器で加温することが安全で望ましいと言えます。据え置き型の加温器でしたら、あらかじめ旅先に宅配しておくのも手です。また、携帯用加温器もあります。湯せんなどで温める方

法は安全性に欠けるため、お勧めできません。もし、湯せんで温める場合は湯の温度に十分注意を払う必要があります。ちょっとした外出なら、あらかじめ自宅で加温した液に使い捨てカイロを貼り、全体をタオルなどの布で包んでおくことで保温力がアップします。また、保温カバーと言う専用のカバーもあります。

Q2. カテーテル出口部の感染を繰り返しています。治ったと思って安心してしていると、また感染してしまいます。カテーテル出口部ケアのコツはありますか？

A. 出口部感染の原因には、カテーテル周囲の清潔や不潔、肉芽形成、血染み状態、かき傷、虫咬、かぶれ、潰瘍、カテーテルによる摩擦、出口部固定不十分などがあります。ケアのコツは、毎日、出口部の観察を十分に行うことです。出口部が見にくい方は家族の方に見ていただく、鏡に映して見たり、工夫してみてください。絶えず乾燥した状態にして、カテーテルをしっかり固定します。カテーテルの裏側は、汗やほこりが溜まりやすいので、カテーテルの裏側もしっかり消毒を行って

下さい。特に、ダクトロリス(カテーテルと皮膚粘着の隙間)と思われるポケット状出口部が形成されている方は、十分な消毒を行ってください。現在お使いのケア用品を見直すことも大切です。最近ではインジゴを塗布して消毒することもなく、出口部を水道水で洗浄することも、感染予防につながると思われています。インジゴがぶくれやインジゴ焼けのある方は、消毒液を見直すことも大切です。また、主治医に相談しておいて下さい。

Q3. 時々、体調が悪くなることがあります。すぐに受診したほうが良いのでしょうか？

A. 急性排液は、女性の場合は月経、排卵時に起こることがあります。月経に伴う急性排液は約50%の方に発生すると報告されています。この場合は生理の痛さとともに、自然に元に戻ります。ただし、出血量が多い、あるいはフィブリンが多い場合は一度受診し、婦人科疾患の併発も考慮したほうが良いでしょう。その他の疾患では、SLE(全身性エリテマトーデス)などの自己免疫疾患や、多

量血球抗体、アミノイオンシスによる組織障害によって生じる急性排液も報告されています。性別に関係のない原因としては、カテーテルによる摩擦の悪化、腫瘍など内的問題、硬化学療剤が考えられます。特に、硬化学療剤は抗がん剤薬であるため、硬化学療剤が抗がん剤薬であることが原因で起こる疾患です。長期継続透析では、EPSを念頭に置いて主治医に相談することも大切です。

記事全文

なんでも相談室

【回答】

医療法人社団恵心会
京都武田病院副病院長
武田 敏也先生

Q 外出先でバッグ交換をする時、液がぬるかったことがあります。やはり液の温度はいつも同じほうが良いのでしょうか？また、外出先で交換する際の注意点やコツがあれば教えてください。

A 透析液は36℃の適温で使用するのが安全です。通常お使いの加温器は、透析液が36℃に保たれるよう設定されています。外出時や旅行時でも、加温器で加温することが安全で望ましいと言えます。据え置き型の加温器でしたら、あらかじめ旅先に宅配しておくのも手です。また、携帯用加温器もあります。湯せんなどで温める方法は安全性に欠けるため、お勧めできません。もし、湯せんで温める場合は湯の温度に十分注意を払う必要があります。ちょっとした外出なら、あらかじめ自宅で加温した液に使い捨てカイロを貼り、全体をタオルなどの布で包んでおくことで保温力がアップします。また、保温カバーと言う専用のカバーもあります。

Q カテーテル出口部の感染を繰り返しています。治ったと思って安心してしていると、また感染してしまいます。カテーテル出口部ケアのコツはありますか？

A 出口部感染の原因には、カテーテル周囲の湿潤や不潔、肉芽形成、低栄養状態、かき傷・湿疹、かぶれ、液漏れ、カテーテルによる摩擦、出口部固定不十分などがあります。ケアのコツは、毎日、出口部の観察を十分に行うことでも出口部が見にくい方は家族の方に見ていただいたり、鏡に映して見たり、工夫してみてください。絶えず乾燥した状態にして、カテーテルをしっかりと固定します。カテーテルの裏側は、汗やぼこりが溜まりやすいので、カテーテルの裏側もしっかり消毒を行ってください。特に、タウングロス(カテーテルと皮膚粘膜の隙間)と言われるポケット状出口部が形成されている方は、十分な消毒を行ってください。現在お使いのケア用品を見直すことも大切です。また、最近ではイソジンを重ね塗りして消毒するのではなく、出口部を水道水で洗浄することも、感染予防につながると言われています。イソジンかぶれやイソジン焼けのある方は、消毒液を見直すことも大切ですので、主治医に相談してみてください。

Q 時々、排液が赤くなることがあります。すぐに受診したほうが良いのでしょうか？

A 血性排液は、女性の場合は月経、排卵時に起こることがあります。月経に伴う血性排液は約50%の方に見られるとの報告があります。この場合は生理の消退とともに、自然元に戻ります。ただし、出血量が多い、あるいはフィブリンが多い場合は一度受診し、婦人科疾患の併発も考慮したほうがよいでしょう。その他の疾患では、SLE(全身性エリテマトーデス)などの自己免疫疾患や、多嚢胞腎疾患、アミロイドーシスによる組織損傷によって生じる血性排液も報告されています。性別に関係のない原因としては、カテーテルによる腹部の損傷、腸疾患など内的問題、硬化性腹膜炎が考えられます。特に、硬化性腹膜炎は被嚢性腹膜硬化症(EPS)とも言われ、腹膜が肥厚し、腸管の癒着などが起こる病態です。長期腹膜透析では、EPSを念頭に置いて主治医に相談することも大切です。